



## みちくさとマンホール蓋

(マンホールマップ企画開発者を訪ねて)

仲間内で最近、「肩が痛い」、「腰が痛い」という話が多く聞かれるようになりました。寂しい話ですが、皆、歳をとったものです。「何か健康に良いことを」と申し合わせてウォーキング（散歩）を始める知人がいますが、これが皆、長続きしません。三日坊主ならまだいいほうで、始めたその日のうちに音をあげてしまう者もいます。

実は筆者も、毎日コツコツ同じことを続けるのが苦手です。今は仕事で外に出る機会が多く、適度な運動量は保てていると思っていますが、しかし将来必ずやってくる老化に今からどう備えるか、大きな課題です。皆と同じようにウォーキングにでも挑戦してみようかと考えていますが、飽きっぽい性格のため、歩く目的というか、自分なりの楽しみ方を見つけなければ続かないだろうと思っています。

そういう意味で、なんとなく参考になる情報があるのではないかと覗いたのがインターネットにサイトを構える「みちくさ学会」です。同サイトの説明文をそのまま引用すると、「“みちくさ”の楽しみ方を提案するブロゲメディア」だそうで、例えば看板や標識、路地裏や坂道など、普段人があまり注目しないような物に対し、いわゆるマニア目線で面白さを伝え、その鑑賞術などを紹介する内容となっています。そのサイトの中で特に気になったのが「マンホールマップ」です。これは、どこにどんなマンホール蓋があるかを電子地図上に示す、ユーザー投稿型の無料サービスです。

筆者はこのほど、マンホールマップを開発した3名の方にお会いすることができました。マンホールマップの発案者である森本庄治さんとソフトを開発された木村桂さん、それにiPhone用にアプリを移植された石原淳也さんです。森本さんと木村さんはコンピューター関連企業にお勤めで、元は同じ会社の同僚だったそうです。そして石原さんは“つくる社”という会社を立ち上げ、CEOを務めています。伺ったところによると、森本さんは2007年に出張先の長野県松本市で初めてカラーマンホール蓋に出会い、すっかりその魅力にはまったといいます。そして、マンホール蓋をカメラに収める傍ら、インターネットに投稿を始めたところ、ことのほか反応が良くて、コレクション熱はますます高まっていたのだとか。



松本市のマンホール蓋

一方で、悩ましい問題にも直面したそうです。それは、ネット上に面白いマンホール蓋の情報を見つけても、それを自力で探し当てるのが難しいということです。なにせマンホール蓋は建物と違い、表札をぶら下げているわけではありません。また、遠くから存在を確認することも困難なため、例えば最寄り駅の情報を入手したとしても、そこからさらにターゲットを見つけ出すまでが一苦労なのだとそうです。

そうした問題を解消すべく、森本さんが企画に乗り出したのが、位置情報付きデータでマンホール蓋をマッピングする「マンホールマップ」でした。



マンホールマップのトップページ  
<http://manholemap.juge.me/>

システムづくりは木村さんが担当しました。木村さんは当時、似たような機能を持つ汎用性の高いアプリ

ケーションの開発を検討していたそうで、頭の中ではiPhoneのGPS機能を活用した開発設計図がすでに出来上がっていたといいます。ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、iPhoneは写真を撮ると自動的に位置情報が取り込まれる仕組みになっていて、それをマッピングに利用する考え方です。

こうしてできあがったマンホールマップ(PC版)は、2010年7月に運用が開始されました。ちょうど夏休み期間中だったこともあり、ツイッターやブログでキャンペーンを展開したところ、すぐに全国から情報が寄せられはじめたといいます。ちなみに、投稿された情報は拡縮可能な地図上にマーキングされ、それをクリックすることで写真やコメントなどの詳細情報が画面に大きく表示される仕組みとなっています。

木村さんによると、現在1日平均6000アクセスほどあるとのことで、累計のマンホール蓋登録数は全国3600ヶ所を上回るといいます。そして、ここまで順調に支持されてきた要因を尋ねると、森本さんは、サービスを無料で提供したことのほか、「多様な才能が集まった」点を挙げてくれました。

マンホールマップのように、唯一無二ともいえる交流の場には、非常に熱心なファンが集まつてくるものです。そしてそういう人々は時にすさまじい奉仕精神を發揮し、力を与えてくれるものです。マンホールマップはこれまで幾度かのシステム改良を重ねてきましたが、そのすべてが木村さんの手によるものではありません。例えば新着情報を通知する機能や、情報をブログに切り貼りする機能などは、ネットで知り合ったマンホール蓋ファンが無償で製作し、提供してくれたものだそうです。また、システム以外の部分でも、マンホール蓋のTシャツをデザインする人や、蓋専用のウェブメディア「路上遺産文化データベース」の立ち上げ人、そして研究発表の場「マンホールナイト」など、脇からコミュニティの活動を支えてくれる人たちが次々に現れたといいます。



マンホール蓋探しは歩く目的になる

マンホールマップのiPhone版を手掛けた石原さんは、偶然、ネットにアップされていたカラーマンホール蓋の画像を目にしたことでマンホールマップの存在を知り、同サービスの熱心なファンになったといいます。そして、ユーザーの立場から、「iPhoneで撮った写真をそのままiPhoneで投稿したい」と考えるようになり、「開発を任せてももらえないものだろうか」と思い至ったそうです。この点について、実は木村さんも以前から同じ構想を持っていたそうですが、なかなか手が付けられずに困っていたとのこと。ですから石原さんの申し出はまさに渡りに船であり、計画はとんとん拍子に進んだといいます。

完成したiPhone版はオリジナルのデザインを施し、とても可愛く仕上がっています。それも、デザイン部分については女性デザイナーの協力を受けたことが功を奏しているのだといいます。



iPhone版マンホールマップ  
<https://itunes.apple.com/jp/app/manhorumappu/id555673018?mt=8>

このように、同じ趣味嗜好を持つ人たちがつながり、それぞれの持ち味を活かして共通の楽しみを盛り立てていこうとするのが、ネットでつながることの醍醐味と言えるかもしれません。

「iPhone版をつくったことによって楽しみ方が拡がった」と石原さんは話します。いつでも、どこでも、端末さえあればお宝(マンホール蓋)を探しができる。そんなノリでしょうか。

楽しみは、お金をかけなくても、意外なところに転がっているものです。そんな偶然との出逢いを期待して、街をぶらぶら歩いてみるのもいいものかもしれません。

(筆者：中山 熱)

【参考】みちくさ学会：<http://michikusa-ac.jp>